

孤独感と友達感

友達感に家族や親戚関係も含めるとした場合の作品)

孤独という概念が私にはない、
理由は下記にて

- ①自分一人で発想し、自分一人で決する
- ②例え①の答えが結果的に間違いだとしても、納得した自分なりの答えでもある
- ③超短時間で決め実行出来る

安全という土台の上での答えであり、
360度あらゆる観点から物事を思考し、決定している為、
安全という状態は確実に確保した上での判断でもある。
合法的という言葉は常に使用している理由がそこにあり、
合法的とは、あくまでも刑法の範疇にて、
慣習道徳や倫理感及び常識概念はそれに含まない

参照作品①

参照作品②

ただし、上記決め事はあくまでも、相談事の観点から見たものでもあり、
「相談する」と「楽しい一時」とは全く異なる類のものでもある。

孤独 = 寂しい

この概念はあくまでも本人の主観的心理でもあり、
一人でも寂しくなければ・・・それは孤独ではないと言える。
孤独という概念は、あくまでも社会一般的な見地から称されているものである。

友達がいる = 孤独ではない

この概念にはいささか疑問が残る。
例えば、どこまでの接触または会話を超えると友達となるか・・・
これもまさしく主観的な心理でもあり、

自分では友達と思っていても、、、というケースも有り得なくもないが、自分の主観で友達としているのだから・・・「友達」で間違いない。

極端な例として・・・、

* 世界人口数－1人（自分）＝友達
としても本人がそう思えば「友達」となる。

* 相談はしないが、楽しい一時として友達感
（大事は一人で決めるなど）

* 人間以外も「友達」と思えば、それも「友達」となる。

ちなみに、大阪では
友達を「連れ」とも言い、
関西以北での 連れ（同行者又は配偶者）を指す意味合いの
一般的な意味合いでの「連れ」とは異なる。